様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 １６ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2012～2015
課題番号：２４３２００８２

研究課題名（和文）日本人英語学習者の話し言葉・書き言葉のコーパス整備と教材開発

研究課題名（英文）Implementing Japanese English Learners' Written and Spoken English Corpora and Developing Teaching Materials for Japanese English Learners

研究代表者
池上　嘉彦（IKEGAMI, Yoshihiko）

東京大学・総合文化研究科・名誉教授

研究者番号：９００１２３２７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　6,800,000円

研究成果の概要（和文）：既に収集された日本語母語話者の英語学習者の書き言葉コーパス（ICLE Japanese sub-corpus）と話し言葉コーパス（LINDSEI Japanese sub-corpus）の整備を完了した。また、両コーパスにエラータグを付け、今後の研究で利用可能とした。そして、そのエラータグ付きコーパスを用いて、動詞、名詞、冠詞などの文法項目に関する日本人英語学習者の特徴的な誤用を分析し、教材開発を行ない、学習用教材をweb上で公開した。更に、これまでの研究活動の成果（コーパス、エラータグ付きコーパス、教材等）を発表するwebサイトを開設し、今後も両コーパスに関連した情報を掲載する準備を整えた。

研究成果の概要（英文）：In this project, we have been working mainly on three things: First, we have closely reviewed ICLE (International Corpus of Learner English) and LINDSEI (Louvain International Database of Spoken English Interlanguage) Japanese sub-corpora in order to finalize the error-tagging procedure to both corpora. Then, we have created web-based learning materials for Japanese EFL learners based on the grammatical errors (verbs, nouns, articles, etc.) shown in the both error-tagged corpora. Finally, we have opened our group web site in order to upload and disseminate the achievement of our research project.

研究分野：言語学

キーワード：話し言葉コーパス　書き言葉コーパス　ICLE　LINDSEI　教材開発

１．研究開始当初の背景

(1) 本研究は、平成 12-14 年度、平成 15-18 年度、平成 20-23 年度（申請代表者 池上嘉彦）に科研費を受け国際的共同プロジェクトの一部として実施した『日本人英語学習者の話し言葉・書き言葉のコーパス作成とその語用論的対照研究』を継続したものである。

(2) 当初ロンドン大学で‘Survey of English Usage’というプロジェクトとして 20 世紀後半にイギリス英語の収集で始まったコーパス研究は、イギリス以外の各地の英語を母語とする使用国における慣用(World Englishes)コーパスの作成へと広がっていった。

そして、非母語話者、とりわけ大学学部上級レベルの英語学習者を対象に、第 2 言語としての英語慣用のコーパスの作成へと拡大され、平成 14 年秋にはこれまでのデータを集約して、初の ICLE(International Corpus of Learner English)の CD-ROM が出版された。

本研究は、1986-87 年にこれまでの申請代表者(池上)がロンドン大学で当初のプロジェクトに関係していたことから始まり、現在では本部をベルギー・ルーヴァン大学に置き、世界的規模で進められている学習者英語コーパスとしての「ICLE 作成プロジェクト」の日本語母語話者の英語学習者についての資料収集、整理を委嘱されているという事情をふまえ、継続的に活動してきた研究に基づいている。そして、書き言葉を収集した ICLE の後には、LINDSEI (Louvain International Database of Spoken English Interlanguage) として話し言葉の収集活動へと拡張され、それぞれ他国の研究者との共同比較対照研究が展開される段階にまで進んでいた。

ICLE、LINDSEI は各国代表期間の取り決めに従って、データの収集を行なったことから、世界の 20 ヶ国に近い国々から同じ条件で書き言葉、話し言葉のデータが集められている。その為、これに参加することによって、異なる言語の話し手の間での非母語話者の英語使用の比較検討が可能となった。日本語母語話者の英語学習者のみを対象にした話し言葉のコーパスや書き言葉のコーパスは、近年多数収集が行われては来ているが、英語以外を母語とする多くの国々が、同じ方法で収集した話し言葉・書き言葉のデータは他に余り見られなかった。既に、日本語母語話者の学習者の書き言葉については、目標の量を収集済みで、中国、韓国などと共に ICLE の CD-ROM の第 2 版として平成 21 年に出版された。また、話し言葉の LINDSEI のデータも、既に世界の有志国約 11 カ国で CD-ROM として平成 22 年に出版されており、本研究グループが収集した日本語母語話者の大学学部上級レベルのコーパスが収められている。

これらのコーパス作成は、英語学習者の中間言語、第二言語習得、外国語教授法等の多分野の研究への貢献が期待されていると共に、e-learning をはじめとして、コンピュータを利用した学習が広く行われ始めた研究開始当初の学習環境においては、本研究が目指す ICLE や LINDSEI 関連のコーパスに基づいた日本人大学生上級レベルの英語学習者の為の web 教材とそれを用いた学習教材の作成は、前例のないものであった。

これまでの語用分析に留まらず、異なる母語を持つ学習者の語用論的対照研究への発展が期待され、さらに多くの研究者の有効利用が望まれている。以上のように、英語学習者の中間言語研究の分野で、本研究は、国内はもとより国外においても重要な位置づけを占めるものと言える。

２．研究の目的

今回の研究の目的は、以下の 2 点にまとめられる。

(1) 第 1 の目的として、既に収集済みの日本人英語学習者の書き言葉（ICLE Japanese sub-corpus）及び話し言葉（LINDSEI Japanese sub-corpus）コーパスを更に精査し、そこにエラータグを付し、その語彙、構造、談話の特徴を分析し、他の文化圏の英語学習者コーパスと比較対照研究ができるようなデータを整えることをめざした。

書き言葉については ICLE の、話し言葉については LINDSEI の、標準化されたフォーマットに従って、日本人英語学習者から集めた英語の作文とインタビューを、トピックや長さなどの規準に従って更に整理し、それぞれにエラータグを付す作業を行なった。

そして、その作業の終了後、これらのデータを基に、*WordSmith Tools* などのコーパス分析ツールを用いて、語彙、構造、談話の特徴を分析し、特に語用論的運用力の発達について、英語母語話者や他の言語・文化圏の英語学習者の場合と比較対照に取り組んだ。

(2) 第 2 の目的として、(1)項に記した英語母語話者や ICLE と LINDSEI の他国の英語学習者のコーパスとの対照研究の結果や、エラータグを付与した日本人学習者コーパスの分析から明らかになった日本語母語話者の英語学習者に散見される英語の誤用に基づき、文法の学習ツールを作成し、web 上で公開することをめざした。

３．研究の方法
以下の 3 点を中心に、研究を展開した。

(1) 収集済みの ICLE と LINDSEI を再度見直し精査する作業を進めた。特に書き言葉の ICLE に関しては、未公開としていた初級・中級レベルの日本語母語話者の英語学習者の sub-corpus (List B) の web 公開に取り組んだ。

(2) ICLE 並びに LINDESI のデータに、エラータグを付ける作業を行った。

(3) タグ付けされた ICLE と LINDSEI の Japanese sub-corpora に基づいた学習教材開発を行ない、web 上に公開した。

４．研究成果
上記「研究の方法」に基づき得られた研究成果は、下記の 5 点にまとめられる。

(1) ICLE の Japanese sub-corpus の List B を、研究グループの Web サイト（http://www.jcorpustokyo.jp）で公開することができた。

(2) ICLE や LINDSEI の Japanese sub-corpora にエラータグを付し、前述の Web サイトで公開した。

母語話者による誤用のチェックの後、どの様なエラータグを付与すべきかを研究グループ内で検討した。そして、日本語母語話者の学習者における英語の定着度を分析するため、伝統的な文法カテゴリーに従って分類する方向で進めることにした。

(3) 上記の ICLE や LINDSEI のエラータグ付き Japanese sub-corpora を利用し、日本人英語学習者の特徴的な英語の誤用に基づく Web 教材を作成し、『学習者コーパスから学ぶ大学生のための英文法』のタイトルで、前述の Web サイトにて公開した。

教材の内容は、エラータグのカテゴリーを考慮し、1) 動詞（主語との一致）、2) 動詞の時制（現在形・過去形、直接話法・間接話法）、3) 名詞（数）、4) 冠詞、5) 代名詞、6) 形容詞と副詞、7) 助動詞（仮定法と直接法）の 7 項目にまとめた。

(4) 今回の研究活動の成果として、論文集『日本人英語学習者の話し言葉・書き言葉コーパスに基づく研究』を研究グループ全員で執筆・出版した。

(5) これまでの研究成果（ICLE の B List、エラータグ付きコーパス、web 学習用教材等）を掲載できる Web サイトを開設し、今後も継続的に運営することにした。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 16 件）
①'Subjective-Objective Contrast' (Shukaku Tairitsu) and 'Subject-Object-Merger' (Shukaku Goitsu) in 'Thinking for Speaking': A Typology of the Speaker-preferred Stances of Construal across Languages and Its Implications for Language Teaching, Yoshihiko Ikegami, *Cognitive-Functional Approaches to the Study of Japanese as a Second Language*, 査読有, pp. 301-318, 2015.
② 'Relationship between Questions and Responses in LINDSEI Japanese Subcorpus Interviews', Tomoko Kaneko, *Learner Corpus Studies in Asia and the World*, vol. 2, 査読有, pp.201-221, 2015.
③ 'Use of *of* in "Noun *of* Noun" Trigrams by Japanese Learners of English', Tomoko Kaneko, 『学苑』(昭和女子大学紀要), 査読有, 822, pp.2-14, 2014.
④ 'A simple speech task and development in fluency', 夏苅佐宜,『立教大学ランゲージセンター紀要』, 31 号, pp.19-28, 2014.
⑤ 'Automatic Extraction of L2 Criterial Lexico-grammatical Features across Pseudo-longitudinal Learner Corpora: Using edit distance and variability-based neighbour clustering', Yukio Tono, Camilla Bardel, Christina Lindqvist & Batia Laufer (eds), *L2 Vocabulary Acquisition: Knowledge and Use: New perspectives on assessment and corpus analysis*, vol. 26, 査読有, pp.147-162, 2013.
⑥ 'Japanese University Students' Production of the English Motion Verbs COME and GO in a Learner's Corpus' 髙野惠美子,『学苑』(昭和女子大学紀要), 査読有, 858, pp.25-36, 2012.

〔学会発表〕（計 47 件）
① 'Response of Chinese and Japanese English Learners in Interview Questions', Tomoko Kaneko, TESOL International Association Reginal Conference, 2015 年 12 月 3 日, National Institute of Education（シンガポール、シンガポール）.
② 「日本語、韓国語、トルコ語の<事態把握>と<ナル>表現」, 池上嘉彦, 第 16 回日本認

知言語学会，2015 年 9 月 12 日，同志社大学（京都府京都市）.

③ ‘Linguistic Feature Extraction and Evaluation Using Machine Learning to Identify “Criterial” Grammar Constructions for the CEFR levels’, Yukio Tono, Corpus Linguistics 2015, 2015 年 7 月 22 日, Lancaster University (Lancaster, UK).

④ 「文化記号論と相同性-日本文化の場合」，池上嘉彦, 韓国日本研究団体第 30 回国際学術大会，2014 年 8 月 22 日，誠信女子大学（ソウル市、韓国）.

⑤ ‘Relationship between Questions and Responses in LINDSEI Japanese Subcorpus Interviews’, Tomoko Kaneko, International Symposium Learner Corpus Studies in Asia and The World, 2014 年 5 月 31 日，神戸大学（兵庫県神戸市）.

⑥ 「コーパス基盤の複合知識の創出と言語教育」，投野由紀夫，Humanities and Communities: Writing, Language, Public Sphere, 2014 年 4 月 14 日，延世大学（ソウル市、韓国）.

⑦ 「文化記号論」，池上嘉彦，第 1 回中・日・韓比較文化研究国際学術シンポジウム、2013 年 10 月 10 日，瀋陽航空航天大学（瀋陽、中華人民共和国）.

⑧ ‘Use of “of” by Japanese University Students’, Tomoko Kaneko, LCR (Learner Corpus Research Conference), 2013 年 9 月 27 日，Solstrand Hotel & Bed (ベルゲン、ベルギー).

⑨ ‘English Language Education and the CEFR in Japan’, 投野由紀夫，JACET 関東支部大会，2013 年 6 月 16 日，青山学院大学（東京都渋谷区）.

⑩ ‘Developing Fluency in Speaking’, Sayo Natsukari，2013 年 5 月 27 日，The 4th CELC Symposium, National University of Singapore (シンガポール、シンガポール).

〔図書〕（計 25 件）

① 『日本人英語学習の話し言葉・書き言葉コーパスに基づく研究』, 池上嘉彦・金子朝子・投野由紀夫・髙野惠美子・石塚美佳・赤堀志子・夏苅佐宜・髙味み鈴，110 ページ、2016 年，学習者コーパス研究グループ.

②『コーパスと英語教育』，投野由紀夫，堀正広・赤野一郎（監修）「英語コーパス研究シリーズ 第 2 巻」，220 ページ，2015 年，ひつじ書房.

③『発信力をつける新しい英語語彙指導』, 投野由紀夫，144 ページ，2015 年，三省堂.

④『英語教師のためのコーパス活用ガイド』, 投野由紀夫，242 ページ，2014 年，大修館書店.

⑤『英語学習者コーパス活用ハンドブック』, 投野由紀夫・杉浦正利・和泉絵美・金子朝子，249 ページ，2013 年，大修館書店.

〔その他〕

ホームページ等

http://www.jcorpustokyo.jp

６．研究組織

(1) 研究代表者

・池上 嘉彦（IKEGAMI, Yoshihiko）
東京大学・大学院総合文化研究科・名誉教授
研究者番号：90012327

(2) 研究分担者

・金子 朝子（KANEKO, Tomoko）
昭和女子大学・文学研究科・教授
研究者番号：10138505

・投野 由紀夫（TONO, Yukio）
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号：10211393

・髙野 恵美子（TAKANO, Emiko）
昭和女子大学・人間文化学部・教授
研究者番号：90338541

・髙味 み鈴（TAKAMI, Misuzu）
昭和女子大学・人間文化学部・准教授
研究者番号：30226922

・赤堀 志子（AKAHORI, Naoko）
昭和女子大学・グローバルビジネス学部・講師
研究者番号：80327949

・石塚 美佳（ISHIZUKA, Mika）
東京工科大学・教養学環・准教授
研究者番号：90331503

・夏苅 佐宜（NATSUKARI, Sayo）
高崎経済大学・経済学部・准教授
研究者番号：50449097

(3) 研究協力者

・Rod Ellis (University of Auckland, Professor)

・Sylvaine Granger (Université Catholique de Louvain, Professor)